

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 41 ストケシア ～

職藝学院

教授 渡邊 美保子

ストケシアは北アメリカ南西部原産のキク科の宿根草です。6月中旬に瑠璃色の花を咲かせます(写真1)。地際からバラの花びらのように放射状に何枚もの細長い葉を出し、葉と葉の隙間から何本かの花茎を伸ばして開花します。開花時の草丈は50cm前後で、株の中央以外から伸びた花茎は開花しながら横に倒れてゆくので、広がり70cmほどになります。



写真1 花は、紫がかった鮮やかな青色。和名はルリギク。花の色に由来する。大正時代に渡来。6月下旬。

ストケシアの花茎は5月初旬になると伸び始めます。1本の花茎に3枚から4枚の細長い葉が、茎を包むように互い違いについています。5月中旬になると、緑色の花びらを何枚も重ねたような蕾が茎の先に見えはじめます。その蕾を見上げるように、下の葉の付け根の内側からも蕾が一つずつ現れます。5月下旬、蕾は、緑色のとがった花びらが開いたような姿に変わります。茎の色が緑色から薄茶色に変わる6月中旬になると、茎の先端の蕾が大きくなってようやく手毬のような花が顔を出します(写真2)。花を包み込んでいるたくさんの総苞片には、トゲのようなものがついています。やがて花が開いてヤグルマギクを大きくしたような姿に変わります(写真3)。花が咲いて太陽の光をまんべんなく浴びることができるのは2日程度で、そのあとは、再び閉じて数日後には

は地面に落ちてゆきます(写真4)。見ごろは短いのですが、先端の花が開花したのを待ってからその下で準備している次の蕾が順番に開花してゆきます。

不思議なことに、花が終わると再び開花前の蕾のような姿に戻ります(写真5)。また初めからやり直しでもするかのように、まったく同じ姿になるのです。これから花が咲くのかもかもしれないと思うほどです。また緑の花が咲いたようになるため、しばらく楽しむことができます。ストケシアは、茎の先端の花が一番大きく咲くようです。優先的に栄養分を送られているのが分かります。

ストケシアは、太陽の光が十分に当たる所と水はけの良い土壌を好みます。宿根草庭園では、花壇の手前に植えられます。冬も葉が残るため、何株かまとめて植栽すると一年を通して緑の縁取りとして重宝します。



写真2 蕾が膨らみ始めて1ヶ月ほどで花びらが見えてくる。



写真3 満開のストケシア。2日ほどで開花が終わる。6月中旬。



写真4 花が咲き終わると花だけがしぼみ落ちてゆく。



写真5 花が落ちた後。咲く前の姿と同じになる。